



ウィークリー・ニュースレター

2021年2月26日～3月4日



「最も大切なのは、最も大切なものを、最も大切にすることである。」

スティーブン・コービー[※17]

COVID-19 時代の只中にある教会を見ていて、最近、上に載せた一文について随分と考えました。悪魔が、神の民の間に“分裂の足がかり”を得たように思えます。教会に行く派 対 スティホーム派や、マスク肯定派 対 反マスク派、ワクチン肯定派 対 反ワクチン派が居て、(相手への) 攻撃は辛辣で、論争では厳しい言葉が飛び交います。大勢のクリスチャンの間で、ソーシャルメディアでの「醜(みにく)さ」の度合いが増大しています。牧師たちは、まるで自分たちが医者か科学者であるかのように、自分たちの立場を忘れ、その結果、教会に属する多くの人へ混乱をもたらしました。ある人たちは、神学的な医師の医学的アドバイスを無視。また別の ある人たちは「なぜ、古き良き あの牧師が、突然、医学博士にでもなったかのような口ぶりで話すのか」と不思議そうに首をかしげ、その間、世間一般は、この状態を見て「またクリスチャン達がやってる」と笑って、教会は重要ではないと思っているのです。その間サタンは、満足して嘲笑っています。人々を「イエス・キリストの真理」から遠ざける(サタンの)最大の盟友は「無益な教会」です。互いに争っているとき、私たちは、どんどん無益になっていきます。

かつて、ユダ王国のヨシャパテ王が、“アモン、モアブ、セイル山の連合軍”に立ち向かった時のことを思い出します。連合軍は巨大でしたが、神はヨシャパテの勝利を保証しておられました。王は神を信頼していたので、聖歌隊に軍勢を指揮させました。この音楽的な軍隊が戦場に向かって行進するとき、主は働きを開始されました。

アモン人とモアブ人は、セイル山の住民に立ち向かい、これを聖絶し、根絶やしにしたが、セイルの住民を全滅させると、お互いに力を出して滅ぼし合った。ユダが荒野に面した物見の塔に上ってその大軍の方を見渡すと、なんと、死体が野にころがっている。のがれた者はひとりもない。(歴代誌 第二 20 章 23-24 節)

私たちが神を信頼すると何かが起こる、という素晴らしい物語です。今の時代、教会は戦うために行進しているわけではありません。悲しいことに、私たちは谷間で殺し合っているのです。ですから、教会と神に敵対する人々が、信教の自由、言論の自由、ジェンダーの問題で、主の民と戦おうと準備するとき、教会は既に傷を負い敗北しており、互いに引き裂かれていることに気づくのです。

イエスはどのようにして、人々が“弟子たちを見分ける”と言われたのでしょうか？ 裏切られる夜に、イエスは弟子たちに言いました。「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたし



ウィークリー・ニュースレター

2021年2月26日～3月4日

があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」（ヨハネの福音書 13章 34-35節参照） 友よ、マスクをしていようが、していまいが、どうでも良い事です。ワクチンを受けるか、受けないかは あなたの選択です。私はどちらにしても、あなたを愛しています。なぜでしょう？ あなた方は、私の兄弟姉妹だからです。

これこそ、世が“見なければならぬこと”です。世が“互いへの愛”を見れば、今までの生き方よりも“良い生き方”があることに気づくでしょう。その時、私たちは「この世の光」となるのです。その時、私たちは希望を差し出すのです。その時こそ、（神との関係が切れて）死んでいる人達に、どのように「命を見出す事が出来るのか」を見せる時です。 そうする事で、私たちは“最も大切なこと”を“最も大切にする”のです。

中東情勢について

バイデン大統領は先週木曜日、軍の最高司令官として初の軍事行動に出ました。2機の F-15 戦闘機がイラクとの国境に近いシリア東部 イマーム・アリ軍事基地で、イランが保有する権利物へ精密 GPS 航法兵器を投下しました。テロリスト民兵の1人が死亡しました。「具体的には、カタイブ・ヒズボラや、カタイブ・サイード・アル・シュハダなど、イランが支援する多数の過激派グループが使用している国境管理地点にある複数の施設を破壊した」と国防総省（ペンタゴン）のジョン・カービー報道官は述べました[※1]。私は先週のニュースレターで、バイデンが先ごろ被った「米軍駐留基地へのロケット攻撃」に対応するかどうか質問を投げかけました。これに答える彼の功績は「はい」でした。国務省のスポークスマン、ネッド・プライスはこれを肯定し、「我々は、以前、イランの代理人がアメリカ人を攻撃する行為に対して責任を負うと表明している。」と述べました[※2]。しかし、報復は前政権に比べると、かなり生ぬるい物だったと言わざるを得ません。この攻撃は「ええ、見えていますよ。もう止めてくださいね。」と言うに等しいものでした。前政権の報復なら、民兵組織は武器や指導者を失い、家を失っていたでしょう。

イスラエルの貨物船「MV Helios Ray」が、シンガポールに向けてサウジアラビアのダンマム埠頭から出港しましたが、金曜日オマーン湾で爆発が起き、左舷に2箇所、右舷にも2箇所、穴が喫水線のすぐ上に開きました。幸いにも乗組員に怪我はありませんでした。損傷を修復するために船は、UAE のドバイに向かいました。何が起きたのでしょうか？ 誰もはっきりと確信できないものの、推測では（テロ）実行部隊が船体に爆雷を仕掛けたのではないかと考えられます。しかし、背後に誰がいるのか、皆が確信しています。3パターンの推測ができますが、それほど多くは必要ないでしょう。この場合、もちろんイランです。日曜日、イスラエル軍のアビブ・コチャビ参謀長は、イランが「民間人を的にした作戦」を実行していると非難しました[※3]。彼はイランによる船舶攻撃のことを指していると明らかにしました。その夜遅く、イスラエルは反撃しました。イスラエル国防軍（IDF）はゴラン高原から発射して、ダマスカス南部 セット・ザイナブ の イラン革命防衛隊を攻撃し、アヤトッラーたちへの明確なメッセージを送りました。「イスラエルの船を攻撃する時は、速攻で激しい復讐がある事を覚悟せよ。」

船関連のニュースは、これだけではありません。2月17日、イスラエルの浜辺にタールが漂着し始めました。大量の原油流出に起因する副産物がイスラエルの海岸線すべてを覆い、それはレバノンにまで及ぶ規模の環境汚染災害となりました。これは壊滅的な損害で、何千人ものボランティアが膨大な時間をかけて汚染



ウィークリー・ニュースレター

2021年2月26日～3月4日

物を除去しました。数え切れない鳥や海の生物が死滅しました。すぐさま非難の矛先はイスラエルに向けられ、即座にイスラエルの諜報機関は、原油流出を引き起こしたタンカー特定に向け動き出しました。一方、レバノンには「自分たちの海岸の被害で、イスラエルを訴える」と脅しました。その時、奇妙なことが起こりました。イスラエルのシークレットサービスによって、流出をめぐる「箱口令」（かんこうれい）が敷かれたのです。

昨日、調査結果が発表されましたが、それは驚くべきものでした。今回の原油流出事故は、イランによるイスラエル国家に対する意図的な環境テロ行為だったのです。リビア企業が所有するタンカー「エメラルド号」は、イランからシリアに向かい、イスラエルに接近した際、自動識別装置（AIS）のスイッチをオフにした上で、ほぼ丸一日、何千ガロンもの原油をイスラエルの海岸から わずか数マイル沖で垂れ流したのです。積荷を投棄した後 シリアに航行し、そこで送信機（AIS）の電源を入れ直し、そしてイランに戻りました。イスラエルのギラ・ガムリエル環境保護相は「今、イランは核兵器で[イスラエル]を恐怖に陥れ、近隣地域に手を伸ばしているだけでなく、環境にも危害を加えている」と述べました[※4]。これは新種のテロであり、代理実行者（民兵）を使って行われたのではなく、この凶悪な行為はイラン自身によるものです。報復があります。この種の（自然）環境への攻撃は、「目には目を」の程度で済まされるものではありません。イランは結果に苦しむことになるでしょう。「この汚染に関与した人間は、代償を払わねばならない。」とガムリエル氏は言いました。「容赦ない環境犯罪者のせいで、私たちの自然は破壊され、動物たちは被害を被った」[※5]。

特にイランが勢力を増し、ロシアが影響力を拡大している今、米国は中東の同盟国を必要としています。愛か憎しみか…。サウジアラビアは歓迎すべき同盟国となっていました。しかしバイデン大統領は、就任当初からサウジと距離を置き、世界の目の前で「サウジに恥をかかせよう」と決意しているようです。先週の金曜日バイデン政権は、2018年に起きた サウジの作家でコラムニスト、ジャマル・カショギ氏 誘拐殺害事件に関する国家情報長官室からの報告書を機密解除・公表しました[※6]。調査結果は、ムハンマド・ビン・サルマン皇太子（MBS）が作戦を承認したことを示唆しています。同日、財務省はカショギ殺害に関係した 別のサウジ政府高官に対する制裁措置を発令し、国務省は事件全体に関与が疑われる 76人にビザの発給制限を課しました[※7]。制裁リストに名前が載っていなかったのは誰か？ MBS（ビン・サルマン皇太子）。

これは、この政権の全体的に気まぐれな外交政策の餌になっているだけです。他国にどう思われるか気にして、強く出られないのです。この振る舞い方には皆が怒っています。サウジは裏切られたと思い、屈辱を感じています。人権擁護派は、米国がMBSをあまりにも簡単に放免したと考えて怒っています。バイデン政権下の国務省によると、サウジアラビアと関係悪化させないために、政権はMBSへの制裁を取り止めたということです。しかし同時に、バイデンはサルマン国王に、「人権侵害の責任を問う」など、両国の関係性のあり方[※9]を「再考する」用意があると伝えました[※8]。人権侵害をしている国に呼びかけるのは良いことですが、それをどう行うかが問題です…特に、あなたが同盟国であり続けようとしている相手に対しては。公の場で敵を名指ししても、友に対峙するなら隠れて行くべきです。

ことにイランのジャーナリスト、ルホラ・ザム氏が辿った運命を考えると、カショギ氏の一件が今後も尾を引くかどうか注目されます。ザム氏はイランで長期間投獄され、釈放後はフランスに亡命。そこで彼はイラン政府に非常に批判的なテレグラムチャンネルを運営。2019年10月、ザムはイラクにおびき寄せられて、



ウィークリー・ニュースレター

2021年2月26日～3月4日

そこで逮捕されイランに送還。裁判にかけられ、「地上の墮落」の罪で有罪となり、2020年12月12日に絞首刑に処されました[※10]。バイデン政権は、これとほぼ同じパターンであるカシヨギ問題で、イランにどう対処するのでしょうか？ 一貫性を保つのでしょうか？ 外側から見ると、新大統領はサウジを押しつけるため全力を尽くしているように見え、国務省はイラン政権に媚び続けています。

首都リヤドの多数の住民は、何本かの“光跡”が空中に上がるのを見ました。ほどなく夜空に閃光が走り、ひと足遅れて爆音が響きました。これは、サウジアラビアの「対空防衛ミサイル」がリヤド市へ飛来した「弾道ミサイル」を迎撃破壊したものです。一方、市内各地区へ、多数の自爆 UAV（ドローン）がそれぞれ異なる目標物を狙って飛んでいました。被害や死傷者は出ていません。バイデン政権によって「テロ監視リスト」から外されたにもかかわらず、これら一連の「テロ活動」に関する声明を出したのはフーシ派でした。フーシ派のスポークスマン、ヤヒヤ・アル・サリーは、「この作戦は、敵の首都リヤドの中核エリアを狙って、弾道ミサイル1発とドローン15機を使って実行した」と述べました[※11]。フーシ派は軍事拠点だけを標的にしたと主張していますが、サウジはそうのように捉えてはいません。イエメンで戦うサウジ主導の連合スポークスマン、トゥルキ・アル・マリキ大佐は、フーシ派は「組織的かつ意図的に民間人を狙った」と述べました[※12]。首都に向かって弾道ミサイルが飛んで来たばかりの状況で、大佐の結論に異議を唱えるには無理があります。実際に首都の住民は「自分たちは狙われた」と感じています。サウジの多くの空港は閉鎖されており、民間人は空路を避けて、車で移動しています。

テロ監視リストからの除外といえ、バイデン政権のスポークスマンは、イスラム革命防衛隊（IRGC）を「外国テロ組織（FTO）リスト」から外すことを求めています。2019年4月にさかのぼり、トランプ大統領は、国が持つ軍事組織をFTOに指定するという、これまでになかった大胆な行動に出ました[※13]。そうすることで、IRGCが単なる“テロ支援者”ではなく、“テロ実行者”そのものであると強調し、それから、バグダッド国際空港にドローン攻撃を仕掛け、イランによる多数のテロ活動を指揮したカッセム・ソレイマニ将軍を暗殺して、その点をさらに強調したのです。暴力的な政権に対する（前政権の）強硬姿勢は、弱腰のバイデン政権と大違いです。

イランは、EU や米国と核協議について直接会談を拒む一方で、自身の「核開発プログラム」が監視（査察）されるのを阻み続けています。イスラム革命の最高指導者 アヤトッラー・ハメネイ師（81歳）は、2月22日に 政治的というよりむしろ（宗教の）教義を説くような非常に冗長な演説の中で「核兵器開発はイランの計画には含まれていない」と世界に向けて断言しました。しかしながら「もしイランが核兵器開発を計画に含めると決めたなら、誰もそれを止めることはできないだろう」と、彼は付け加えました。

またハメネイ師は「まあ、あの国際的なシオニストのピエロ（イスラエルのベンジャミン・ネタニヤフ首相）を含め、何人かの者たちは、我々（イラン）に核兵器を作らせないと常に言っているが、イランの核兵器開発を阻止する者とは何様なのか。もし我々が核兵器を作ると決めたなら、あなたや、もっと大きい国でも我々を止められまいが、我々が（自ら）そうしないことに決めたのは、イスラムの思想の為だ。我々イスラム教の考え方では、民間人や軍人ではない者、庶民を殺すために使用される兵器は禁止されている。核兵器であれ、化学兵器であれ、そのような兵器は禁止されている。我々が核兵器を製造しないのは、イスラム教の思想の為だ。しかし、もし我々がそれを望むなら、お前達には阻止できない。」[※14]

それは“コーランに反しているの”イランは兵器を作らないと言っています。気分が良くなりませんか？



ウィークリー・ニュースレター

2021年2月26日～3月4日

核開発は厳密にはエネルギー目的（平和利用）です。本当ですか！彼らを信じると？嘘はつかないから？「イランは必要に応じて核の開発を決める」とハメネイ師は述べたのです[※15]。だから、全く心配は要りません。彼は、「JCPOA（共同包括的行動計画）」で合意された3.67%をはるかに超えて、ウラン濃縮度を核兵器に必要な分からたった30%不足する、60%にまで引き上げる事を約束して、それを保証しました。この演説を受けてE3（フランス、ドイツ、英国）は共同声明を発表し、「IAEAが施設に出入りする権限と、監視活動に必要な情報収集能力を大幅に制限する」として、この動きを「非常に危険」としました[※16]。どうやらE3は「コーランがそう言っているから」というセリフを信じていないようです。

最近レバノンから出された報告書によると、レバノン市民の大多数がイスラエルとの和平を望んでいることが明らかになりました。何がそれを阻んでいるのでしょうか？レバノンにおけるイランの代理人「ヒズボラ」です。マロニテ派のベチャラ・ブートロス・アル・ラヒ総主教は最近のインタビューで、「私たちはイスラエルとレバノンの和平を望んでいるが、それを妨害しているのはヒズボラだ」と述べました。このテロ組織は、レバノン政府の中に完全に入り込んでいます。市民と“ヒズボラではない指導者”が立ち上がり、この悪党を排除し、かつて繁栄していたこの国に平和が戻ることを祈る必要があります。

ミニストリーについて

中東や世界各地で多くのことが繰り返されており、このミニストリーで取り扱いたいトピックが無限にあるように思えます。これが毎週「中東アップデート」を行うとても重要な理由の一つです。さらに、先週末には、ジャン・マーケルさんとバリー・スタグナー牧師と一緒に「携挙後の世界はどのようなものになるのか」をテーマに預言座談会を配信しました。可能であれば動画をご覧になって、身近な人と共有することをお勧めします（日本語版は近日公開予定）。神の願いは、あなたと、あなたのお知り合いの人達が（地上に）取り残されないようにすることです！

第2ペテロ 3章9節

主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせているのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

毎月1回、私はイスラエルのテレビ局「TV7」に出演していることを知って頂きたいと思います。このコロナによって、私はエルサレムに行き、ホスト役のジョナサン・ヘッセンと一緒にイスラエルや中東地域、聖書預言に関する重要な時事について話し合う機会を得ました。最近では、イスラエルに対する神の「終わりの時代」の目的について話し合いました。この番組は非常に洞察に富んだものになると思います。

ヤングアダルト・弟子訓練（YAD）チームは、土曜日の午後12時（PST）[※日本時間 日曜 朝5時]から、「御言葉と世界とあなた」という座談会を再開します。今週のテーマは「絶望した人達への希望」です。私たちの願いは、この番組が世界中の若者たちを励まし、鍛え、真の希望の源に目を向けさせてくれることです。ぜひ、あなたの輪の中の若者たちにこのイベントを伝えてください。

正直に言うなら、現在、このミニストリーではエキサイティングなことにたくさん取り組んでいます！



ウィークリー・ニュースレター

2021年2月26日～3月4日

の1つが、最近撮影した私のメッセージ「イスラエルと大患難」のプレミア上映です。私の願いは、このメッセージが教会の中に漂っている“ある混乱”をスッキリ晴らす一助になればと思っています。その混乱とは、神がご自身の民である「イスラエル」という国の上に定めておられるご計画とその目的についてです。

出エジプト記 33章 13節

今、もしも、私があなただのお心にかなっているのでしたら、どうか、あなたの道を教えてください。そうすれば、私はあなたを知ることができ、あなたのお心にかなうようになれるでしょう。この国民があなただの民であることをお心に留めてください。」

皆さんの一貫した祈りと、このミニストリーとの寛大な財政的パートナーシップに心から感謝したいと思えます。私たちのスタッフと家族は、毎日あなたの祈りを必要としています。私達や私達の身近な人達がどれほどの攻撃を受けているか、一冊の本が書けるほどで、その多くが子どもたちや配偶者に向けられています。繰り返しますが、祈りは私たちとパートナーシップを組むための最も重要な方法です。

最後に、私は率直に言います。あなたが聞いたことをすべて鵜呑みにせず、神のみことばと比較する必要があります。私は、クリスチャンが聖書とかけ離れた多くの教えを真に受けているのを見て、非常に落胆しています。教会の中には、神の御言葉に書かれていないが“希望のように見えるもの”に、しがみ付いている人たちが大勢います。おそらくあなたは「狙いを定めなければ、何かに当たる」という格言[※18]を聞いたことがあるでしょう。神の御言葉を知らなければ、何をしても道に迷うこととなります。しかし、神様の御言葉に忠実であれば、嘘をフィルタリングして取り除くことができます。

気を散らさないでください。右にも左にも引きずられて脱線してはいけません。コロサイの教会に、イエス・キリストを受け入れる事についてパウロが言った事、「イエス・キリストの中に根ざし、歩みなさい」。これをぜひ実行してください。

コロサイ人への手紙 2章 6-7節

あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい。キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおりに信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。

ヨハネの福音書 17章 14-19節

わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものではないように、彼らもこの世のものではないからです。彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いいたします。わたしがこの世のものではないように、彼らもこの世のものではありません。真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。わたしは、彼らのため、私自身を聖め別ちます。彼ら自身も真理によって聖め別たれるためです。

主の再臨を待ち望む、
アミール ツアルファティ

<https://mailchi.mp/beholdisrael/amirs-weekly-roundup-july-7-22-1006389>



ウィークリー・ニュースレター
2021年2月26日～3月4日

<NEWS>

■ポンペオ前国務長官、サウジ王国の「多く」がイスラエルとの関係を望んでいると主張

2021年3月2日

前国務長官は、今週、反ユダヤ主義運動との闘いに向けて演説しながら、サウジアラビア王国がアブラハム合意に参加することを望む声を上げた。ポンペオ前国務長官の談話「私はサウジアラビア王国がアブラハム合意に参加する方法を見つけられることを願っています。私は、国内の多くが、和平の実現を望んでいることを知っています。」

■イスラエルの攻撃はダマスカス南部のイラン軍事拠点を標的にした

2021年3月1日

イスラエル国防軍（IDF）は、ダマスカス地域のイラン勢力を標的に攻撃を実施した。この攻撃は、先週イスラエルの貨物船にイランが攻撃した疑いに応答したものであるとの憶測がある。

■イスラエルの貨物船がオマーン湾で外的要因の爆発に見舞われる

2021年2月27日

3月初旬にシンガポールに到着する予定だった船は、損害を被った後、ホルムズ海峡に向かい引き返したと報じられている。イランの関与が疑われている。

■イスラエルが湾岸諸国と「4カ国防衛同盟」を結ぶため協議中と報道

2021年2月26日

ユダヤ国家（イスラエル）は、イランの脅威が拡大する中で軍事防衛協定を結ぶため湾岸諸国と協力していると報じられた。協議中の軍事協定は、米国が「イラン核取引」復帰に向けて動き出した時期に行われている。

脚注：出典（1 から 16 まで全て英文記事。見出し中の日本語は自動翻訳によるもの。17, 18 は訳者による出典追加）

1 Starr, Barbara, et al. 「米国はイランの支援を受けた民兵を標的にシリアで空爆を実施。」 CNN、Cable News Network、2021年2月26日、www.cnn.com/2021/02/25/politics/us-iraq-iran/index.html。

2 同上。

3 デブレ、イザベル。「不思議な爆発の後、ドバイに停泊しているイスラエル所有の船。」 AP 通信、2021年2月28日、apnews.com/article/joe-biden-israel-iran-iran-nuclear-united-arab-emirates-5395e0df33beee5819f35bee8e04e4b6。

4 ハリコフ、ラハブ。「地中海の油流出はイランによる「エコテロリズム」である、とイスラエルは言及。」エルサレムポスト | JPost.com、2021年3月3日、www.jpost.com/israel-news/the-ship-behind-oil-spill-found-environmental-protection-minister-says-660817。

5 同上。

6 「Read：ジャマル・カショギの殺害におけるサウジの役割に関する機密解除された報告」。CNN、Cable



ウィークリー・ニュースレター

2021年2月26日~3月4日

News Network、2021年2月26日、www.cnn.com/2021/02/26/politics/read-unclassified-report-on-jk/index.html。

7 ポストック、ビル。「バイデンは、サウジアラビアとの関係が悪化することを望まないため、カシヨギの殺人についてMBSを制裁することを拒否したと当局者は言う。」Business Insider、Business Insider、2021年3月2日、www.businessinsider.com/biden-refused-sanction-mbs-over-khashoggi-killing-protect-saudi-ties-wapo-2021-3。

8 ウッドワード、アレックス。「バイデンは、カシヨギ殺害に関する報告書を発表するための諜報当局者としてサウジアラビア国王との呼びかけで人権を高める。」インデペンデント、Independent Digital News and Media、2021年2月26日、www.independent.co.uk/news/world/americans/us-politics/biden-king-salman-mbs-khashoggi-report-b1807737.html

9 「バイデンは、サウジアラビア国王に権利侵害の責任を負わせると言った-ユニビジョンのインタビュー。」ロイター、トムソンロイター、2021年2月26日、www.reuters.com/article/usa-saudi-khashoggi-biden-interview-int/biden-says-he-told-saudi-king-he-will-hold-them-accountable-for-rights-abuses-univision-interview-idUSKBN2AR00V。

10 「ルーホッターザム：イランは、ファニング不安で告発されたジャーナリストを処刑する。」BBC News、BBC、2020年12月12日、www.bbc.com/news/world-middle-east-55285301。

11 「サウジアラビアでのフーシ主張ミサイルとドローン攻撃。」ミドルイーストモニター、2021年3月1日、www.middleeastmonitor.com/20210301-houthis-claim-missile-and-drone-strikes-in-saudi-arabia/。

12 「サウジアラビアは、首都をめぐるミサイル、南へのドローン攻撃でフーシを非難している。」タイムズオブイスラエル、2021年2月28日、www.timesofisrael.com/saudi-arabia-blames-houthis-for-missile-over-capital-drone-attack-on-south/。

13 ライナー、マヌエル、サミュエルM. ヒッキー。「分析|トランプは、米国の「テロリスト」レベル割り当て方法を変更した。バイデン政権はそれを元に戻すことができるか？」ワシントンポスト、WP Company、2021年2月12日、www.washingtonpost.com/politics/2021/02/12/trump-changed-how-us-assigns-label-terrorist-can-biden-administration-change-it-back/。

14 「禁止されている核兵器：国のニーズに基づいたウラン濃縮の増加」。Khamenei.ir、Khamenei.ir、2021年2月27日、english.khamenei.ir/news/8396/Nuclear-weapons-forbidden-Increasing-uranium-enrichment-based。

15 同上。

16 「イランによるJCPoA追加議定書の停止：E3外相声明」。GOV.UK、GOV.UK、2021年2月23日、www.gov.uk/Government/news/e3-foreign-ministers-statement-on-the-jcpoa-23-february-2021。

17 スティーブン・リチャーズ・コヴィー (Stephen Richards Covey)、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレイクシティ生まれの作家、経営コンサルタント。代表作『7つの習慣』。Wikipediaより。

18 ジグ・ジグラー (Zig Ziglar) の名言より。アメリカ・アラバマ州出身の自己啓発作家・講演家。http://www.eigomeigen.com/Zig_Ziglar.php?p=6。

以上